

用語解説

意図

意図は目標と、その目標を達成するためのプランから成る。例えば、大人が子どもといっしょに積み木を積むことを意図したのに、子どもが1人で積んでしまう場合は、「積み木を積む」という目標は理解できているが、「いっしょに積む」という大人のプランは理解されていないことになる。

協同活動 (co-operative activity)

広義には2人以上の活動に従事すること。Bratman (1992) は協同活動を、①参加しかかっている活動における目標の共有、②参加している活動に適した役割を理解し遂行することによる相互的な活動、③参加者相互の役割の理解と、必要に応じて役割を果たそうとする他者への支援、の3つの特徴を満たすものであると定義している。

共同注意 (joint attention)

複数の人が同時に同じ対象に注意を向けている状態のこと。生後9カ月頃までは、乳児の視線とその対象に大人が合わせることによって成り立つ「支えられた共同注意」がほとんどである。9カ月頃からは、大人からの働きかけによって子どもが大人の視線を追従する「受動的な共同注意」が成立し、その後、子ども自ら大人の注意を操作して共同注意をつくり上げる「能動的な共同注意」が見られるようになる。

逆模倣 (contingent imitation/counter imitation)

子どもの行為（身体の動きや音声）を大人がまねすること。大人が子どもの行為を同時並行的に模倣する場合と子どもの行為が完了してから随伴的に模倣する場合がある。子どもが自分の行為を模倣している他者に関心を向けることや、子ども自身の行為と他者の行為との間の類似性、随伴性に気づく上で効果的であるとされる。

二項関係（三項関係を参照）

「乳児（自分）とお母さん（他者）」、あるいは「乳児（自分）とおもちゃ（物）」といった二項の間で構成される関係。例えば、「乳児とお母さんが見つめ合う」、「乳児がおもちゃに働きかける」などの行為によって成り立つ。

三項関係

「乳児（自分）とおもちゃ（物）とお母さん（他者）」といった三項の間で構成される関係。例えば、「乳児がおもしろいおもちゃを見つけ、お母さんに見せる」などの行為によって成り立つ。

出典 長崎勤他 (2009、「自閉症児のための社会性発達支援プログラム：意図と情動の共有による共同行為」)